

## 【学生による ESD 学習支援活動】

### 奈良市富雄第三小中学校 第7回ユネスコ委員会 支援報告書

国語教育専修2回生 奥平 茜

国語教育専修1回生 西條 秀哉

1. 日時 平成30年11月7日(水) 14:00~16:00
2. 場所 奈良市富雄第三小中学校
3. 参加者 奥平茜、西條秀哉(学部生)  
奈良市富雄第三中学校ユネスコ委員会の生徒、教員1名

#### 4. 概要説明

平成30年11月7日に、奈良市富雄第三小中学校でユネスコ委員会が行われ、私たち学生はその支援に携わった。今回のユネスコ委員会は通常時とは異なり、ピオトープ班と国際交流班に分かれず全体で活動を行っていた。今年度の活動において、9年生(中学3年生)が委員会での役職を終え、後輩たちに引き継いでいくためにも次期委員長を含めた役職について話し合う活動が行われた。その後、国際交流班を中心に留学生へ贈るフォトブックの作成を始めるために、印刷物をきるという活動を行っていた。



役職の感想を話している様子

今回の支援を通して学んだことは2つある。一つ目は立場や役職が人を作っていくという側面があること、二つ目は人とのつながりが大切であるということだ。

一つ目の、立場や役職が人を作っていく側面があるということについて述べる。次期委員長・副委員長などを決める際に、今まで役職についていた子どもたちが感想を話す時間があった。委員長をしてみてもよかったこと、副委員長になって考えたことなどを前で話してくれた。今回、ユネスコ委員会の委員長・副委員長・書記を務めていた子どもたちの話を聞いて、「自分に向いていないと思ってたけど頑張ってもよかった」「本当にしたい役ではなかったけれど、やってよかった」という感想が印象に残った。やってみることで、意外と大変だった・意外と大変ではなかったといった感想が出たり、やってみたらこそその役職のよさを感じることができたのだと考えられる。実際にやってみるということは、1度経験するまではなかなか難しいことであるが、ユネスコ委員会という場所が子どもたちにとって向き不向きにかかわらずやってみよう、と思える環境なのだとすることがすごいと感じた。

二つ目の、人とのつながりが大切であるという点について述べる。自分にとって今回の支援は、今年度2回目となるものであった。そのため、ユネスコ委員会に関わる先生方や子どもたちと出会うのは2回目であり、前回よりも関わりやすと感じた。先生方や子どもたちと「前回話したことがある」「前回顔を見て知っていた」などということが、かかわりを続けていくうえで重要なのであると考えた。

以上のようなことについて、今回の支援を通して考え、学ぶことができた。今後の支援において、今回感じた、子どもたちが「挑戦してみよう」と思うことができるような雰囲気や環境を保っていけるように話し方や行動について考えていきたいと考えている。つながりやかかわりについても、これまで以上に「かかわりやすい」と感じてもらえるような表情や話し方を考え、心がけていきたい。また、私たち自身も、自分の所属している団体で「挑戦したい」と感じられる雰囲気や環境をどのように作っていくのか・自分自身がそう思うにはどうすべきかなどを今後より学んでいきたいと感じた。